



—東地中海地域ニュース—

トルコ：大国民議会総選挙

(13日付現地各紙)

13日付トルコ各紙は、12日に行われた総選挙について報じている。概要は以下のとおり。

6月12日（現地時間）、トルコで2007年以来、5年ぶりの総選挙が実施された。即日開票の結果、現在の政権与党である公正発展党（AKP）が最大野党共和人民党（CHP）を破り、3期目の政権を獲得した。しかしながら、AKPの悲願である単独での憲法改正に必要な議席数、3分の2には至らなかった。

共和国建国以来、政教分離政策を厳格に採ってきたトルコだが、2002年に誕生したAKP政権の下で少しずつ変化してきた。今回の総選挙は、親イスラーム政党であるAKPが憲法改正に必要とされる3分の2の367議席（定員数550）を獲得できるか否かが、最大の争点であったが、本日現在（開票率99.9%）AKPの獲得議席は326議席にとどまった。憲法改正案によって、現在の議院内閣制から大統領制への移行を目指し、より政権基盤の安定を図ろうとしたエルドアン政権の目論見にブレーキがかかったと言える。

一方、好調な経済を背景にイスラーム色を強めるAKPに対し、世俗主義政党の野党CHPはこれまでに135議席を獲得、AKP政権の単独での憲法改正の夢を阻止した。特に、リベラルな地域と言われるエーゲ海沿岸の3県（イズミル県、アイドゥン県、ムーラ県）で、AKPに勝利した。

クルチュダルオウルCHP党首は選挙後、「われわれは、6ヶ月で350万人の新たな支持者を獲得した。国民議会の中で唯一議席数を伸ばした政党である」とした上で、AKPに対しては「AKPは、強くなったわれわれに直面していることを肝に銘じなければならない」と強調した。

エルドアン首相は、12日深夜に勝利宣言を行ったが、その中で「われわれは、AKPに投票した人もしなかった人もすべて受け入れる」としAKP以外の支持者にも配慮を見せた。